

## 令和5年度「令和における福生市立学校の在り方検討委員会」（第4回）感想等

| 1 部活動への思い、今後はどうあるべきか（※それぞれのお立場から） |  |
|-----------------------------------|--|
| 委員                                | これまで部活動が担ってきた役割は、健全育成の視点からも大変大きなものであると思う。しかしながら、今求められている教員の働き方改革を進めていくこと、持続可能な部活動を考えていくと、地域連携からいずれば地域移行を行っていくことがよいと考える。そのため、学校が行う部活動から、学校とは切り離し、スポーツ・文化的な活動の機会の設定をしていくことを考えていくようにする。   |
| 委員                                | 部活動を楽しみに学校に来ている生徒は多い。一方、自身の専門性を生かして部活動で生徒を指導したいという教員も多いだろう。ぜひ、部活動の存在は継続してほしいと個人的にも思う。しかし、今の方式をそのまま継続することは、働き方改革や時代の流れからもそぐわなくなっているのが現状であろう。指導者、運用の担当をどうするかを学校・地域の実態に応じた在り方を柔軟に取り入れることが大切だと思う。外部指導者・時間講師・教員の任意希望・他校との協同など 様々なやりかたを試行的に運用し、徐々に改善してほしいと願う。  |
| 委員                                | 個人的には部活を通して得られるものは、教師側も生徒側もそれぞれ大きいと思うので、何らかの形で部活動は残されていった方がいいと思う。ただ、誰にとってもそうではないので、教師にも生徒にも選択する余地が必要ではないか。   |
| 委員                                | 中学校進学に際し、部活動を楽しみにしている6年生の子供は多いと思われる。子どもたちのニーズに応えるためにも、2校合同や3校合同による部活動も展開しながら、多種類の部活動を設置することが望ましいと考える。<br>2校合同や3校合同の部活動を展開することにより、中学校教員の負担軽減を図ることが最優先と考える。その後、外部指導者の任用（地域連携）や休日の地域クラブ活動（地域移行）へと、段階的に変化していくことが望ましいと考える。  |
| 委員                                | 部活動が居場所の生徒も一定数いると思うので、中学校には必要な活動であると思います。部活動の在り方は、大会に勝つためなのか、健康維持のための部活なのか、両立なのかを考えていく必要があります。団体競技において、技能を高め大会で勝ちたいという生徒が大勢いた場合、クラブチーム等に流れていき、部活動として存続して行けず廃部になってしまう事例もあります。同じ学校の友達と切磋琢磨して活動する場がせばめられないようにできるといいと思います。   |
| 委員                                | 中学入学と同時にサッカー部で入部体験したが、自分の理想と合わずどうしようか悩んでいたときに、先輩から競技としては全く縁のなかったバスケットボール部に誘われそれ以来48年間バスケットボールに関わっている。子どもたちには、可能な限り多様な選択肢を与えてあげたいものだと考える。   |
| 委員                                | 6年生の児童は中学校での部活動を楽しみにしているが、現在進学する中学校に自分がやりたいと思っているものがない場合は外部団体等で続けていくなどしている。学校の中で自分の続けていきたいと思う部活動を通して、互いに励まし合ったり協力し合ったりできるこれまでの学校文化は、ここ十何年かで減ってきているのが少し寂しい気はします。  |
| 委員                                | 教職員は、部活動指導について様々な考え方があり、令和6年度の途中からでも、3校合同部活動が可能な部活動に関しては、順次実施していく。部活動指導を負担に感じている教員に対しては負担を軽減進めていき、いずれは、完全に部活動指導をしなくても良い方向にする。部活動顧問を負担に感じていない人、また、部活動指導をしたい教員は、引き続き指導がしやすい環境、制度（兼業・兼職、報償費など）を整えていく。今後、部活動検討委員を進めていく上で、部活動顧問の代表や保護者代表が意見を聞く機会を設け、生徒、教員、保護者の共通理解を図り、円滑な移行を進めていく。  |
| 委員                                | 市教委や都教委の調査から、教員に頼る部活動運営は今後困難であることは明白と考える。一方で、部活動を活性化することで、保護者や生徒の思いに応え、それが地域全体の活性化にもつながる。校長の思いとしては、生徒や保護者の思いの実現を図るためにも地域の方々に御協力をいただき、現時点で設置している部活動は存続させていきたいと思うが、現状で3つの学校それぞれに部活動指導員を配置することは厳しいと推察する。実現させるためには、3校しかない利点を生かし、すべての競技で3校合同化する必要があり、それをきっかけに地域連携を進めていけないだろうか。  |
| 委員                                | ここ2・3年は各地区の実態に合わせて、地域連携・地域移行への対応を探る必要があるようであるが、この問題が働き方改革の視点で議論されている以上、学校での部活動には無理がある。教員が部活動の顧問として勤務時間外の兼業・兼職として行う考えもあるが、現実問題として、日常の学校での様々な業務を勤務時間内に全て終わらせ、活動場所に行くことは、かなりハードルが高いのではないと思う。将来的には完全に中学校が絡む部活動を廃止にする等、国が方向性を出す必要があるのではないか。   |
| 委員                                | あるべき姿を語るのには難しいです。本来、中学校生活の部活動の中で培われてきた、生徒同士や、先生と生徒間の信頼関係や、仲間意識、思いやりといったコミュニケーションが損なわれることが無い様にしていくことが大切だと思います。環境や生活体系が多様化してきている中で手段や方法を変えていく必要性はあることは感じておりますが、部活動が果たしてきた役割を明確にしていくことで、部活動の新たな方向を具体化していくことだと思います。  |
| 委員                                | □教育委員会が行った部活動意識調査のうち、生徒アンケートの回答で「部活動を行っていて良いと思う点」では「友達と楽しく活動できている」88%、「仲間が増えた」74%である。中学校生活のなかで部活動が生徒の人間関係の構築に繋がっている。生徒のこの思いを大切にすることが必要である。<br>□中学校教員が「部活動の顧問をすることが当たり前」という発想を改めて、如何に負担軽減、残業・休日手当等の待遇改善により働き方改革へ結び付けていくか現場の教員の思い、意見を聞きながら押し付けでない方向性を見出してもらいたい(文科省、東京都で検討すべきことを含めて)。   |
| 委員                                | 部活動は体力の向上はもちろん、精神的にも強くなると思います。連帯感や達成感も得られます。私の子どもたちは部活動が楽しいから学校に通ってたと思います。なるべくならこれまで通り部活動は行ってほしいですが、教員の負担もよく分かります。検討委員会において中学校の校長がおっしゃっていた、3校合同部活動に賛成です。   |
| 委員                                | ①部活動の在り方を検討する過程で、現状何が課題になっているかを複眼視的発想で分析することが必要ではないでしょうか。<br>□教員の日常的な超過勤務の改善（いわゆる働き方改革）<br>□休日にあたる土日の部活動（公式試合も含む）の教員の負担増（民間企業等のような勤務シフト体制が困難）<br>□運動部文化部ともに専門的知見のある教員が顧問になるとは限らない<br>など教員の絶対的人員不足、中体連の顧問に対する取り決め等によるものが多いのではないのでしょうか。<br>②生徒の側からの声が届いてこない。生徒にとって部活は中学校生活にどう関わっているのか、何をどうしたら充実した部活動になるのか。このように深掘りが足りないように思います。「何故（なぜ）？」を5回掘り下げると、事の本質が見えてくると思っています。 |
| 委員                                | 部活動による師や先輩後輩同級生とのつながりが、人間教育にとって重要なものと考えている。培った経験は、生涯にわたって人生の大きな糧となる。そのため、それらの活動に関わる全てのステークホルダーは、自らそのことに責任をもたなければならないと思う。   |
| 委員                                | 部活動はとても大切なことであるが、内部だと無理があるので、外部講師に依頼するのがよいと思います。   |
| 委員                                | 生徒にとって部活動はとても大切だと思います。部活で学べることも多いと思うので、続けてほしいです。   |

| 2 休日の部活動の地域連携・地域移行を行う上で想定される課題等 |  |
|---------------------------------|--|
| 委員                              | <p>①地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>平日と土日に行う指導者が異なることにより、混乱等が生じないか。</li> <li><input type="checkbox"/>土日の事故等の対応をどのように行っていくか。</li> <li><input type="checkbox"/>教員の指導者をどのように確保するか。</li> <li><input type="checkbox"/>教員が土日行う場合、どのように扱うか。</li> <li><input type="checkbox"/>地域等の指導者をどう確保するか。</li> <li><input type="checkbox"/>活動場所をどのように選定していくか。</li> <li><input type="checkbox"/>大会等の参加はどのような扱いになるのか。</li> </ul> <p>②地域移行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>活動時間をどのように設定していくのか。(平日、及び土日)</li> <li><input type="checkbox"/>指導者をどのように確保していくか。<br/>(教員が兼業として行うことを認めた場合でも、毎週従事するのは、本務への影響を考えると困難であると考え。)</li> <li><input type="checkbox"/>指導者の質の維持をどのように行っていくか。</li> <li><input type="checkbox"/>指導者に対する報酬等をどのように設定していくか。(予算をかなり要する)</li> <li><input type="checkbox"/>活動場所をどのようにしていくか。(小学校の施設も利用可能)</li> <li><input type="checkbox"/>大会等の参加はどのような扱いになるのか。</li> </ul> |
| 委員                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>休日のみの指導者や外部担当者と生徒とのコミュニケーションや安全管理・メンタリティのサポートなどが、円滑にいくか。</li> <li><input type="checkbox"/>休日だけを受け入れる人材の確保ができるのか。専門性・指導力・人間力等総合的に求められるものが多い中で部活の種類によっては人材確保に偏りや不在が発生すると考えられる。</li> </ul>   |
| 委員                              | <p>議論の中で、何のために地域連携・地域移行をするのかが、はっきりしなかった。地域連携・移行をすることで解決したい課題が何なのかを明確にした方がよいと思った。また、中学校教員の中でも部活動に対しての意識やスタンスに大きな差があるように感じる。部活に教育的意義や価値を見出せている昭和世代のベテランと、そういう意識で教職を目指したわけではない平成世代(Z世代?)には、大きな乖離があるように思う。教師が部活を指導しないという選択ができる職場の風土を醸成できるかは大きな課題だと思う。</p>  |
| 委員                              | <p>指導者や活動場所が地域に移行し、部活動への教員の関わりが少なくなることにより、部活動への学校経営の反映や、教育的な視点からの指導という点においては、難しさが生まれる気がする。むしろ、外部指導者の指導観や地域スポーツクラブの理念等が、生徒指導の悪影響にならないか心配である。</p>  |
| 委員                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>休日に外部指導員を入れた時のけがや事故等への対応について考えていかなければならないと思います。学校管理下なのか、地域活動なのか。学校の教育課程に準ずる活動として行うのであれば、学校管理下になると思うが、外部指導員の責任まで学校が負うことになると思いがちで、負担が大きいと思います。</li> <li><input type="checkbox"/>大会等を実際に見て生徒の活動や活躍を、一緒に喜んだり、励ましたりすることで、生徒の人間関係が深まっていくと思います。地域に移行することで、それができなくなるのは少し残念に思います。</li> </ul>   |
| 委員                              | <p>理想は思いのある教員が、教育者として部活動の運営に関わってほしい。そのためには、勤務時間外に活動に関わる部分については、兼業・兼職とし相当の報酬を与える必要があると考える。この場合はどうしても大きな予算が必要となることが想定されるため、市だけでなく、都や国の支援が必要である。また、多様な選択肢を設けるためには、競技によって何校かの合同チームとなることも十分想定される。その場合の移動手段や活動時間の設定等ある程度ルールを決めて実施することになると考える。</p>  |
| 委員                              | <p>全ての部活で行うことはできないのではないかと考えます。やはり人的資源はその人に頼ってしまいがちで、団体でなく個人となおさら継続の難しさがあると思うからです。担当できる教員がいないと部活を設立できないということと同じことは起こるのではないかと、また、地域の方への負担は大きくないかなど心配はあります。</p>   |
| 委員                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>部活動の目的(公式戦での勝利か、運動習慣・健康増進など)</li> <li><input type="checkbox"/>生徒の移動手段</li> <li><input type="checkbox"/>事故・怪我の対応、責任の所在</li> <li><input type="checkbox"/>生徒指導</li> <li><input type="checkbox"/>公式戦参加条件(部活動によって異なる)</li> </ul>   |
| 委員                              | <p>事故、事件発生時の対応と責任の所在につきと思う。今までは教員が引率をすることで、その責任のもと休日の指導も行っていたが、競技の指導だけでなく、生活指導面も含めて、指導ができる方の確保は非常に難しいと捉える。</p>   |
| 委員                              | <p>部活動の時間帯である普段の16時～18時の時間帯及び土曜・日曜日に自由に動けて、生徒指導ができる指導者が地域には存在しないことが、最近明らかになり一番の課題である。地域に指導者がいるとしても、今のところ、多くの地域で支払う指導料の財政的な裏付けが全くないことが課題と感じる。</p>   |
| 委員                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>地域団体等、私設団体等、利害関係が伴う場合に教育活動の理解がどれほど受け入れていただけるのか</li> <li><input type="checkbox"/>成績重視となり、成果の出ない生徒が試合に出場できない・部活を楽しめない・楽しみが見いだせない等が起こりうる考えられる。</li> <li><input type="checkbox"/>パワーハラ・セクハラ等ハラスメントの心配。各種団体は信用性があっても、従事する個々に対する信頼性に欠ける。</li> </ul>   |
| 委員                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>生徒の安全安心を確保する仕組み、ルール作り</li> <li><input type="checkbox"/>地域連携・地域移行の検討は東京都全体で未だ試行段階と思われる。その状況の中で、福生市独自で何をするか、何をしておくべきかをどのように検討するか。例えば中学3校の部活動顧問教員、PTA保護者を含めた部活動の地域連携・移行の在り方を協議し、押し付けでない方向性を考える。</li> </ul>   |
| 委員                              | <p>地域の外部講師にお願いした場合、安定継続して指導していただけるか心配である。平日と休日で指導者が違うのは望ましくないと思う。</p>  |
| 委員                              | <p>個人的には地域移行ではなくて地域連携のほうがベターと考えています。義務教育の一環としての部活動という位置づけを維持するのであれば、より専門的・技術的に向上したいとする生徒とそうでない生徒の個の意思をくみ上げるには前者の生徒は現在でもクラブチームに入っているのではないのでしょうか。放課後の在り方の観点も加味するとすれば現在の児童館とのすみわけ、連携も必要になりはしないか。人材がいらないという点についても様々な方法を行政・民間・多摩地域の大学等へのアプローチ等やり切った上での判断ではないかと思えます。</p>   |
| 委員                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>パワーハラ・セクハラ</li> </ul>   |
| 委員                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>怪我が起きた時の対応と責任の所在を明確にすること</li> </ul>   |
| 委員                              | <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>3校合同での部活動移動時の安全</li> <li><input type="checkbox"/>地域連携で、指導員の方を放課後の時間と休日にお願ひできるのか。</li> </ul>   |